

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

1

2015
JANUARY

山形県中小企業家同友会
月刊同友
やまがた



新庄最上支部準備会12月会報告者 佐藤知志氏



新庄最上支部準備会12月会



第12回 経営研究集会第1分科会



第12回 経営研究集会第1分科会報告者 庄司薫氏

2015年 新年のご挨拶

第4回 人を生かす経営全国交流会in長野に参加して

第12回 経営研究集会 第1分科会(経営指針)

本当の意味で社員と思いを共有するとは～経営指針書は誰のためのもの?～

そうだ、
経営を楽しもう。
だから、
本気で向きあおう。

2014年度スローガン



2015年 新年のご挨拶

山形県中小企業家同友会

代表理事 西塔 秀幸

代表理事 中村 友祐

明けましておめでとうございます。

今年2015年は、我が山形同友会が1985年6月に全国27番目の同友会として会員数45名で設立されて30年になります。

設立当初は「山形県知事のご来席」は考えることもできなかったのですが、30年経過した今では山形県知事をはじめ、自治体、金融機関の「ご来席」が叶えられ、「山形大学連携事業」「きらやか銀行マルプロ500・300」米沢市での「米沢市中小企業振興条例検討委員会」の委員に山形同友会理事が選定されるなど、「同友会の企業づくり」への外部評価が高まっています。

先輩方が長年にわたり積み上げてきた「企業づくり」の運動が結実してきているのではないのでしょうか。

会員である私達は「労使見解」や「経営指針」といった果実を全面的に享受できる立場にあるのですから、最大限に自社に活かしていきましょう。

そして外部からも取り上げられる環境にあることを十分に認識して、良い影響をもっともって発揮していきましょう！

昨年の中同協新春交流会で、立教大学の菊地先生から「これからの地域や日本を支えていくには『同友会型企业』がもっと沢山必要」とのエールが贈られました。

真剣に学び合い企業づくりに励み、地域に密着した企業活動を行い、地域の将来を見据えた政策活動、提言活動を行い、同友会として共同求人、インターンシップなどで力を発揮すると共に、地域社会で通用する社会人と育てるよう心掛けている私達こそ、その先頭に立とうではありませんか。

終わりにになりましたが、今年もあなたの会社、あなたの会社に関係のある全ての方々にとって良い一年になることを祈念して、2015年年始の挨拶とさせていただきます。

第4回 人を生かす経営全国交流会in長野に参加して

田宮印刷株式会社 阿部 和人

11月20～21日と「第4回人を生かす経営全国交流会in長野」に参加しました。

「今こそ変革と継承の時～共に育ち合い、企業と地域の未来を作ろう～」をテーマとし、

①同友会における企業づくりの中心的課題である人の採用と教育及び経営指針の確立と実践という課題を「中小企業における労使関係の見解」に示される考え方を軸に自社の経営に有機的に結びつける。

②会内の関連する諸活動(経営指針づくり、共同求人活動、社員教育活動、インターンシップ、障害者雇用、労働問題など)を企業の総合的実践へと結びつけていくための運動の体系化を行う。

③4委員会の交流を行う事で「人を生かす、人間尊重の経営」を目指す同友会の存在意義を対外的にも情報発信する。

という基本的なねらいのもと交流会は開催されました。

まずはじめに、中同協副会長 人を生かす経営推進協議会代表 (株)宮崎本店 宮崎社長より「同友会の企業づくりの運動はこれでいいのか」という問題提起が行われました。

「経営者である以上、いかに環境が厳しくとも時代の変化に対応して、経営を維持発展させる責任がある」という労使見解を根幹とし、同友会で学んだ事を経営実践する事、また経営的観点で地域の将来像を描きながら政策提案していかなくてはならないことを強く提言されました。

株式会社菊池技建 菊池 幸生

この度、長野の第4回人を生かす経営全国交流会へ参加し、どの県でも厳しい環境への対応に、経営者として、責任を持って取り組んでいる姿勢を実感しました。

㈱宮崎本店 宮崎さんの講演は山形でもお話頂きましたが、厳しい環境にどう対応していくのか、現状をわかりやすくお話して頂き、勉強になりました。

この度の目的は、全国でどのように経営指針委員会を運営し、どんな進捗状況になっているのかを学びに行ったのですが、宮崎さんは「とにかく現状分析から入って、しっかりと自社の強みを生かす経営をしなければならない」という事を強調されていました。



また同友会運動が「理念」を唱えるだけの運動になってはいないか、学んだ事をしっかりと経営実践しているかという問題提起には深く考えさせられました。

分科会は第3分科会 共に学び育ち合う社風づくり(障害者雇用問題)に参加しました。

報告では発達障害者を何の準備もなく雇用に踏み切り、試行錯誤しながら障害者の特別な能力を見出し、経営に組み込み、業務改善と人づくり、違いを認め、個性を生かす社風づくりに取りくみ、社員が変わり成長していくという事例には感銘を受けました。

グループ討論では「障害者は戦力になるか」という生々しいテーマに驚きましたが、障害者雇用は「ボランティア的な側面」を持つものと感じていた私には目からウロコのお話が数多くありました。

一番驚いたのは障害者雇用は最初から収益貢献の戦力として雇用を考えるとという事でした。

グループ討論のまとめでは組織において仕事もらえる、役割がある、という事は障害者・健常者にかかわらず対等な欲求であり、そこを労使・社員同士が認め合う事が人間尊重の経営であることを学びました。

分科会を通して、我々同友会が目指すべきは障害者も普通に働ける社会・企業づくりだという問題提起に、自社で今後どのような取組みが出来るのかを考えさせられた分科会でした。

私自身も今期の経営指針書は現状分析をして、SWOT分析から経営戦略へ落とし込んで作成したので、お話を聴きながらやっていることが間違いないと納得していました。

分科会では、本題の経営指針の運営や実践について報告を頂きました。他県では15回の講座を行うなど、運営の時間と労力の負担が多いところもありました。また、受講生側は「作成出来なかった」「実践が出来ていない」など、多くの課題を抱えていました。そして、実践塾といったものを別に運営している県もありました。

私は、実践は経営者としての熱意だと思うので、そこまで関与する必要があるのかという疑問もありましたが、修了生は、経営指針をつくる会で助言者としてかかわる必要性は感じています。仕組みに取り入れて、役割を分担して頂くことで、運営に携わりながら実践に動くことを想い描きました。早速、経営指針委員会で提案をし、それを実践に移して行くことになりました。

2015年から経営指針委員長として実践力を高めていこうと、決意した交流会になりました。これからの企業のビジョンと行動と数字のリンクを関連付けて、山形の企業が良くなるように、微力ながらお手伝いできるように頑張りたいと思います。

本当の意味で社員と思いを共有するとは ～経営指針書は誰のためのもの?～

報告者: (株)菓子工房COCOイズミヤ 代表取締役 庄司 薫氏



経営者になった経緯

高島町のお菓子屋で生まれた私は、お菓子作りの道へ進もうと東京で修業した後、父のお店に入りました。

8年前、父と私が病気になり、妹も出産でお菓子をつくる事が出来ず、仲町店と福沢店という二店舗あったお店は休業に追い込まれました。半年も休むと「イズミヤはもう駄目だ、潰れた」という噂が広がりました。それで、お店を再開する時は家族で話し合い、リニューアルして雰囲気を変えてオープンすることにしました。

そのための資金を調達するために私が金融機関に行くと「従業員には貸せない。あなたは結婚して家を出た方なので法人化にして社長になったら貸します」と言われ、私が経営者になりました。経営者になるという覚悟よりは、店を潰したくないという思いだけで経営者になりました。

社長になった私は売上の多くを占める福沢店を改築して洋菓子の工場をつくり、カフェも併設しました。和菓子の工場も移したかったのですが、場所が狭く、資金不足もあって出来ませんでした。二店舗、二工場でスタートし、売上も伸びていきました。

経営指針セミナーとの出会い

同友会には2008年に入会。翌年の女性部例会で私は同じように親のお店を引き継いだ赤塚さんの経営指針受講の体験報告を聞き、衝撃を受けました。「小さいお店にもいろいろな思いや歴史があって、それを引き継ぎ、未来に向けて理念・方針・戦略を考えて成文化した」というお話に、私はどんな小さなお店でも経営指針が必要と思いました。

そして、2011年に「第16期経営指針作成セミナー」に参加しました。セミナーでは、「何のために経営していますか?」「社員はどんな存在ですか?」と、問いかけられ悩みました。会社は売上が少し伸びていましたが、経常利益は

何とか黒字にしている状況でした。お金は残らないが、毎日お客様が来店し、みんな忙しく働いているので危機感が薄かった。

また、私は社長になった責任感からがむしゃらにやってきましたが、リーダーシップを発揮してどうまとめていけばよいか悩んでもいました。働いている8人のうち半分が家族です。経験のある父は自分の言うことを聞いていればいいという態度でした。私が「こうしたい」と言っても反対して、みんながシーンとなって終わるといふ繰り返しでした。両親、妹、娘と他の従業員とどうしたらうまくやってくれるのかと考えていました。

私は経営指針を作成すれば、自分がぶれずに強く言えると思っていました。経営指針は理念・方針・戦略・計画と作成しますが、私はほとんど理念に費やし、完成させました。

実践の二年間

半年間かけて作成した経営指針書を私が発表した時、みんなは下を向いたままで反応がありませんでした。自分が一方的な思いだけを発表したことは分かっていたのですが、とにかく自分で決めたことはやると計画を一つずつ実践しました。

例えばポスレジの導入を計画し実行します。私は経営指針書にも書いてあり、説明したつもりですが、社員は理解していません。何のためにポスレジが必要なかを説明していませんでした。全てがそんな調子で反対されました。たった一つ私が決めたことで賛成してくれたのは仲町店を閉店すること。全体では売上が伸びていましたが、仲町店は少しずつ減っていました。仲町店は現在80歳の父と77歳の母が和菓子をつくりながら営業し、そこにスタッフ一人を置いていました。

セミナー受講の翌年、和菓子をつくるだけにしてお店を閉めました。ところが予想していた経費の削減には結び付かず、はじめて赤字になりました。経営指針書の計画どおりに工場を一本化しようと思っていた時にお金が残りなくなりました。

運転資金の借入で銀行から決算書、月次書類を求められ、税理士さんをお願いすると、3月なのに12月も出来ない。以前より月次が遅いと何度もお願いしていたが、一向に改善されませんでした。そこで私は経営指針の先輩

に相談して税理士を代え、新しい税理士さんのもとの計画を進めました。

二年間の結果と気づき

福沢店に和菓子工場を増設して工場の一本化を図ることを税理士さんに相談すると「仲町店の経費を考えると新設しても借金は返せるのではないか」とのことでした。早速、みんなに話すと、両親と妹の猛反発に合いました。父は「俺達も働いているのにお荷物か。なぜ赤字になったんだ。家族でやっていた方が良かった」と言いました。私は社員がいる前で言った父が許せず「これからはこの若い人達がやっていくんだ。10年、20年後を考えれば、若い人を育てて託さなければならぬ。少し考えて欲しい」と言い返しました。

私が経営指針に書いてあると言ったところで、誰も覚えていません。何も伝わっていないことが分かりました。そして、赤字は本当に仲町店だけが原因なのかと思い、税理士さんの力を借りて苦手だった数字を見直しました。すると、売上の低迷もありましたが、年間270万円の広告宣伝費がありました。これはポスレジ導入と同時に今までのポイントカードから切り替えるために全てのポイントを還元していたためです。それと原材料費の高騰です。私はいったい何を見て経営してきたのか、恥ずかしくなりました。その時、経営指針書の計画の数字の大切さを痛感しました。

まず私がすべきことは利益を出し、黒字にして、みんなから安心して働いてもらうことと考え、当時最悪の関係だった親と妹と話し合う機会を設けました。しかし、建設的な話しにはならず、私がやってきたこと的不满をぶちまけるのみでした。そして「気持ちバラバラな時に工場を建て経費を削減してもその後がうまくいくのだろうか」と税理士さんに言われ、私も納得しました。

工場が出来ても誰がするのかといえば社員です。私は会社のことだけを考えて必死に取り組んでいるからみんな分かってくれると思っていたが、何も伝わっていない。社員にも家族にも何のために新しい工場をつくるのかをしっかりと説明して、反対されたら納得するまで話し合いをしなければならなかったと反省しました。

三年目の成果

翌年の経営指針書には毎月の数値目標を細かく計画しました。数字は後からついてくると思っていましたが、毎月幹部会議を開き、月次決算書と計画を照らし合わせて、良かった原因、悪かった原因を話し合いました。その後、全体ミーティングで報告し、また翌月の計画を社員と一緒に立てて実行しました。そうやって徐々に幹部会議やミーティングを充実させていきました。

来月の創業祭、再来月のクリスマスには何をどうやって売っていくのかも社員が決めるようにしました。みんなで考えて手作りのココイズミヤ通信も作成し、お客様に手渡

しをしています。ケーキバイキング等、社員からの提案も出るようになりました。今までは私がすぐ口を出していましたが、この一年は社員達が決めたことをやろうと実施してきました。自分達が考えて実行し、そして振り返り、今度はこうしようというサイクルが少しずつ回ってきました。社員も家族もみんな会社のことを考えてくれていると実感しています。

一年間コツコツやり続けた結果、経営指針を作成して三年目の第8期は、はじめて計画どおりの経常利益ができました。逃げてきた数字に対して、社員と一緒に向き合って共有できたから達成できたと思います。みんなも黒字にするという意識が芽生え、仕入の値段を確認するなど、いろいろ考えて行動するようになりました。

そして、第9期経営指針発表会では、はじめて質問や意見が出ました。重点目標として「ギフトに力を入れよう」と提案したら、様々なアイデアや意見が挙がりました。こういう風にみんなで一緒に取り組んでいくことが今まで欠けていたのだと思います。

今後の取り組み

この前、とても嬉しいことがありました。親元から通っていた今年三年目の社員が、最近自立しようとお店の前のアパートに引っ越しました。理由を聞くと「家族と一緒にだと夕飯の時間などがあり、会社に残って落ち着いて技術や勉強ができない。仕事でもっと自分を磨きたい」と言いました。更に聞くと「4月に新入社員が入るので、後輩に追い越されないようにもっといろいろ覚えて仕事ができるようになりたい」と教えてくれました。彼女が新入社員の頃、仕事が出来なくてどうしようと悩みましたが、彼女はコツコツと頑張ってきました。

私は経営で迷わずに判断し選択できるようになりました。そして、今後やるべきことが明確になったと思います。これは経営指針セミナーを終了してから修了生として三年間通い続け、繰り返して学び、経営者としての自己改革が出来たからだと思います。

私は経営指針と出会って、いろいろな壁にぶつかりましたが、自分にとって必要なものでした。これから自分の思いと社員の思いと一緒にできる仕組みづくりをしていきたいと考えています。そして、社員と一緒に悩みながら歩んでいきたいと思っています。
(文責:事務局)



新庄最上支部立ち上げに向けて

～お知り合いの経営者の方をお誘いください～



今年度山形同友会では、「山形県全域に同友会の輪を広げ、元気な会社・元気な地域を増やそう」と、「新庄最上支部」の立ち上げに取り組んでおります。

9月から「新庄最上支部準備会」を設け、新庄市において11月、12月と支部例会と同様の「月会」を開催しました。

11月会では(有)グローバル物流 奥山社長に中小企業振興条例についての講義、大場印刷(株) 大場常務に

経営体験報告をいただきました。「地域になぜ中小企業振興条例が必要か」や「外部環境に依存する危険性」を学びました。

12月会では(有)大山ボデー 佐藤専務に「親の、社員の、お客様の期待に応える」をポイントとして、24時間レッカー対応・整備の見える化・お客さん目線の提案等、納得いくサービスを追求した「自社の強みを生かした経営」、社員の自主性を促す委員会活動・働きたくなる環境づくり等の「人を生かす経営の実践」を報告いただきました。

参加いただいた方からは、「外部環境の変化に強い会社を作ろうと思った」「中小企業振興条例のあり方をもっと知りたい」「他の経営者がどのようなことを考え、悩んでいるか知ることができた」「社員への思い、思いに対する行動を学ぶことが出来た」等、大変好評をいただき入会にも繋がっております。

今後も2015年春頃の支部設立を目指し、学びの多い「月会」を毎月開催していきます。

つきましては、新庄最上支部準備会「月会」に是非ともご参加をお願いすると共に、新庄最上地域のお知り合いの経営者の方に、ご参加のお勧めをいただきたくお願い申し上げます。



新庄最上支部準備会「1月会」のご案内

社長が変われば 会社が変わる

報告者：(株)アドクリーン
代表取締役 安藤昌則氏

2015年1月16日(金) 18:30～

場所：新庄市民プラザ 3階 小ホール
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

「凡事徹底」を社訓に、あたり前のことをあたり前にやるのが全ての基本と考え、「何のために働くのか」を社員に問いかけながら人材育成に力を入れてきました。その取り組みの中で、社員は成長、会社も成長し続けています。「社員を幸せにするのが社長の責任。会社が社会に役立っていることを自覚することが、社員の誇りにつながっていく」と語る安藤社長の報告をもとに、経営者の覚悟と社員が誇りを持って働く企業づくりを考え合います。

【会社概要】

- ◇創業:平成元年 ◇資本金:1,000万円
- ◇従業員数:社員13名 パート5名
- ◇事業概要:グリスフィルターのレンタル、フード・ダクト清掃、業務用洗剤販売
- ◇所在地:寒河江市南町3-3-41 Tel.0237-86-9363
<http://www.add-clean.com>

2015 新春交流会

誰もが共に育ちあう共生社会をつくる

～人の個性を生かす経営を自社から地域に広げて～

2014年2月、食・農部会視察研修に参加した全員が衝撃を受け、感動の嵐にまつまれた(有)思風都(シーフード)土井会長をお招きします。今回は、「命を守る」を使命とする土井会長から、「誰もが共に育ちあう共生社会をつくる～人の個性を生かす経営を自社から地域に広げて～」のテーマでご講演いただきます。全ての企業には使命があります、2015年、あなたの会社がどのような“使命”を持って地域社会に根差し、貢献していくのかを共に考えてみませんか。

そしてまた、社員一人ひとりが幸せをつかむことを実現する為の、“共育ち”の環境を作るのも我々経営者に課せられている大切な使命の一つではないでしょうか。

今回のご講演を是非お聴きのがしなく！



講師 (有)思風都 代表取締役会長 **土井善子氏**
(中同協障害者問題委員会副委員長)

■創業：1976年 ■設立：1996年 ■社員数：社員5名 パート10名
■事業内容：レストラン・カフェ・ペットサロン ■住所：京都市北区天神森町17
<http://seafood-kyoto.com>

とき

2015年**1月23日(木)** 受付／15時 開会／15時30分

第1部 新春講演 15:30～17:05

グループ討論 17:15～18:50

第2部 懇親会 19:05～20:30

ところ

山形国際ホテル 山形市香澄町3-4-5 TEL023-633-1313

参加費

第1部 **2,000円** 第2部 懇親会費 **5,000円**

ごあいさつ

2015 新春交流会 実行委員長 阿部秀顕



2015年山形同友会最初の学びの場、新春交流会の実行委員長を仰せつかりました(株)山形ピッグファームの阿部です。会員の皆様に2015年を迎えるにあたり、より良いスタートをきっていただけるように実行委員の皆様とともに最高の設営をしていきたいと思ひます。

さて、2014年は皆様にとってどんな年だったのでしょうか？アベノミクスの景気もなかなか地方にまで及ばず是非を問われた暮れの選挙。必ずとっていいほど地方、農業、中小企業に触れられていたように、地方の中小企業にはアベノミクスの実感がない厳しい状況だっ

たかと思ひます。

しかし、我々はどんな厳しい経営環境の中でも経営を守り発展させなければなりません。地域に根を下ろし自社がこの土地でどんな存在価値を生み出すのか、果たすべき「使命」は何なのか？

今回は京都同友会より(有)思風都の土井善子会長をお招きします。土井会長にはレストランを通して感じられた自社の社会的使命について講演いただきます。

新春の交流も含め、皆様には是非参加していただき、今年一年の活力としていただければと思ひます。

第9回理事会報告

◆日時:2014年12月10日(水)14:00~16:10 ◆会場:山形ビッグウイング 401会議室 ◆議長:齋藤専務理事
◆出席:青柳、阿部(和)、阿部(秀)、安藤、伊藤(誠)、大場、奥山、小林、西藤、齋藤、佐藤(弘)、庄司、菅原、玉津、水沢、若木、川合、(敬称略) 事務局:伊藤、矢作、高橋 (理事7名 出席率 62.9%)

■代表理事挨拶(西塔代表理事)

■報告事項

- 1) 中同協第4回人を生かす経営全国交流会(11/20~21 長野)の報告(西塔氏、阿部氏、菊池氏)
- 2) H26年度第2回「山形新卒者等就職・採用応援本部会議」(11/28 後藤氏出席)
- 3) 第12回経営研究集会(11/18)の報告(大場理事)
*まとめ、収支報告については、次回理事会に提案する。
- 4) 各委員会・部会より
 - ① 社員共有委員会(幹部社員研修第2講 11/26)(小林理事)
 - ② 第20期経営指針つくる会(2015年2月スタート)(菅原理事)
 - ③ 女性部会例会(12/4)(庄司理事)
- 5) 2014年度11月月次決算報告(伊藤事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 8名入会2名退会 12/10現在 428名

■確認事項

- 1) 11月増強月間の成果(安藤理事)
 - ① 各支部の会員数を確認。11月に開催された「第12回経営研究集会」で、ゲストの方5名入会し、目標は達成しなかったものの、現在最高会勢であることを報告。
 - ② 新庄最上支部(準)12月会が12/5開催。地元から10名、他支部から20名が参加。庄内支部長の佐藤氏の報告とグループ討論で実のある学びの場となった。現在4名の方が入会確約。
 - ③ 入会者の所属支部は、原則として各支部運営規定に基づくが、入会者の意思で他支部を希望する場合はやむを得ないことを確認した。
- 2) 同友会らしい組織をつくるのは役員づくりから(西塔代表理事)
 - ① 同友会理念を理解、実践する役員層を厚くするために
~同友会らしい組織をつくるには役員づくりから~ 中同協 赤石義博氏
 - ② 2007組織問題全国交流会への問題提起 中同協 広浜泰久氏

■討議事項

議題1:2015年新春交流会について

阿部理事より開催要項、タイムスケジュール、役割分担、実行委員会体制、参加目標が提案され、承認された。

1) 開催要項

- 日 時:2015年1月23日(金) 15:30~20:30
- 会 場:山形国際ホテル
- 講 師:南思風都 代表取締役会長 土井善子氏
(京都同友会、中同協障害者問題委員会副委員長)
- 参加費:2,000円、懇親会費5,000円

議題2:外形標準課税適用拡大反対の活動について

西塔代表理事より、12/3現在の署名数1,050筆の報告と引き続き、反対の署名運動の取り組みが提案され承認されました。

今後、2015年5月末までに、署名数10,000筆を集める。3月に山形支部、寒河江支部合同例会として学習会を開催することが決定。講師に立教大学 教授 山口義行氏を予定し、全支部に参加を呼びかけていく。

議題3:会員増強の取り組みについて

安藤理事より、毎月第3水曜日の増強デーの取り組みの確認をし、新庄最

上支部立ち上げに理事会、支部全体の協力要請があった。各支部から入会対象者10名の紹介とこれまで紹介された方への入会の声かけをすることを確認した。

各支部の増強活動の報告があった。

議題4:30周年記念事業について

西塔代表理事より提案があり、実行委員長に菅原茂秋氏、副実行委員長に川合勝芳氏が決定した。実行委員長は、30周年記念事業の全体責任者と30周年記念式典(2016新春交流会)の実行委員長を兼務することを確認した。

事業目的と事業計画(案)が提案され、承認された。30周年記念事業として、第31回定時総会、第27回中同協社員共有活動全国研修・交流会、30周年記念式典を行う。実行委員を選出し、早急に実行委員会を立ち上げ、企画(案)等を2月理事会に提案する。

議題5:規約改正(案)、理事会運営規定改正(案)等について

青柳副代表理事より、規約改正(案)、理事会運営規定(案)、役員選考規程(案)が提案され、次回理事会で再確認する。

議題6:第31回定時総会の件

伊藤実行委員長より、開催要項(第1次案)、実行委員が提案され、下記の内容が決定した。

1) 開催要項(案)

- 日時:5年4月23日(木)午後1時30分開会
- 会場:ホテルメトロポリタン山形
- 記念講演:榊伸電 取締役相談役 原田 誠氏、
代表取締役 佐藤弘樹氏(宮城同友会理事)

2) 実行委員会体制

- 実行委員長:伊藤誠氏 副実行委員長:阿部和人氏、服部正氏
実行委員:越前屋忍氏 小林敏郎氏 小川大輔氏 斎藤源氏 笹林陽子氏
後藤武郎氏 設楽剛史氏 斉加義三氏 長瀬洋一氏 高木康典氏
小関幸一氏 高橋一弘氏 小寺祐也氏 前野智氏

議題7:事務局冬季賞与の件 西塔代表理事より提案があり、予定どおりの支給が決定。

■理事経営体験報告 報告10分、質疑15分 ■座長:伊藤理事

- 1) 報告:山形ビッグファーム 社長 阿部秀顕氏(2005年入会 山形支部長)
*次回報告者

月	報告者	座長
1月	佐藤一夫氏	大場賢二氏

■その他

- 1) 中同協 新e.doyu導入の件
 - 2) 新入会申込書の件(当日資料)
 - 3) 「山形県企業データベース」購入依頼(@1,440円)
 - 4) 第45回中小企業問題全国研究集会(3/5~6 神奈川)の件
 - 5) 第10回理事会日程
 - 日時:1月14日(水)午後2時~午後4時
 - 会場:産業創造支援センター 1F マルチメディアセンター
- 閉会挨拶 青柳副代表理事

新会員紹介

◎青山 格之伸氏

アジアエナジー(株) 代表取締役社長
業種 弁護士保険証券発行・毛髪ミネラル検査
山形支部

◎熊谷 正和氏

(有)デジタル 代表取締役
業種 美容業・衣料品製造販売
山形支部

◎呉本 徒真満氏

(有)三光エンジニアリング 代表取締役
業種 プラスチック射出成形品製造販売
山形支部

◎大津 由紀氏

(株)オオツ興業 取締役
業種 建物解体及び産業廃棄物収集運搬業
山形支部

◎高橋 勝彦氏

(株)タカハシ電工 常務取締役
業種 電気設備工事業
山形支部

◎高橋 聖氏

高橋家具センター
業種 一般家具販売・
カーテン窓まわり取付修理
寒河江支部

◎黒沼 望氏

王様の焼肉(株) 代表取締役
業種 飲食業
寒河江支部

◎植松 伸之氏

(株)植松商店 専務取締役
業種 特定米穀精米業
寒河江支部

支部・会員名・企業名・役職変更

- (株)サン・ベンディング東北
山形営業所(山形支部) 所長 金光 巧氏
⇒ 顧問 清野 茂氏 に変更

同友やまがた1月号(2015年1月1日発行/通巻262号)

From Editor

★新しい年を迎え、仕事も家庭も充実した1年を過ごせることを祈りました。昨年掲げた目標は原点復帰、同友会理念に立ち返ることでした。昨年、「中小企業家同友会全国協議会」(中同協)のあり方の検討が始まり、22年前の1993年発行の中同協誌、第25回定時総会の報告集と出会いました。21世紀型企業づくりが宣言された記念すべき札幌総会でした。現在も第一線で活躍している先輩経営者の報告に触れ、歴史の重みを感じます。★58年も発展し続ける組織の魅力はどこにあるのでしょうか。一番惹かれる点が趣意書にある「中小企業家自身による中小企業家のための組織」であること。そして、自主・民主・連帯の組織運営の精神です。多数決を取らず納得の行くまで議論をする。会社では

一国の主であり、時には一声で物事を決められる立場にある個性豊かな集団にもかかわらず、当然、時間がかかりますが、その精神を貫きとおしている点です。★特定の創始者がいなく、「こうあるべき」というモデルがないのもそのひとつです。支部や委員会などの活動とおし、時には厳しい意見を交わし、お互いの経営課題を一緒に考え、語りあえることは、同友会ならではのことで、社員の成長や会社の変化を喜びあえる仲間も魅力です。★創立30周年を迎える今年、歴史を振り返り、我流にならないように、同友会理念を追求し、「同友会に入ってよかった」「会社がよくなった」といってもらえる企業、地域になくしてはならない企業を1社でも多く増やしていきます。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp